

アパイピシピテペルプ

く水沢家の小さくて大きい物語く

ふじもり 夏香

〈舞台〉

都心にほど近い郊外の二階立ての一軒家。水沢家の人々が住んでいる。一階に、梅代の部屋、朱鷺雄夫婦の寝室、浴室、台所とダイニング。二階に、つばめの部屋がある設定。舞台上はダイニングルーム。

(時)

春か秋の大型連休とその一年後。

〈登場人物〉

水沢つばめ (41) みずさわつばめ。水沢家の長女で朱鷺雄の妹。ちよつと変わって
いるが、愛すべき人柄。独身。母と兄夫婦と同居。

水沢朱鷺雄 (45) みずさわときお。水沢家の家長で市役所の課長。妻のよし子とは
職場結婚。

水沢よし子 (43) みずさわよしこ。朱鷺雄の妻。一昨年まで市役所に勤めていたが、
梅代のことも気がかりで退職し、現在は専業主婦。

水沢梅代 (推定68) みずさわうめよ。朱鷺雄とつばめの母。21年前、夫を事故で
亡くす。それ以来少しづつ、言動のつじつまが合わなくなったらし
い。

星野銀河 (30〜40代くらい) ほしのぎんが。きちんとしてやさしそうで、ち
よつと変わっているが申し分のない男。梅代とも完璧に話が合う。

野本道子 (65) 水沢家の隣の住人。町内のスピーカー。

〈登場しない人物〉

水沢鷹雄 (当時55歳) みずさわたかお。梅代の夫、朱鷺雄とつばめの父。理科系の
大学の教授だった。21年前、事故で亡くなる。

山川樹 (当時25歳) やまかわいつき。鷹雄の研究室の助手だった。

水沢大地 (19) 朱鷺雄とよし子の息子。現在は下宿して、地方の大学に通っている。

アパイピシピテヘルプ・あらずじ

都心にほど近い郊外の二階建ての家に水沢家の人々は住んでいる。市役所勤めの長男・朱鷺雄と妻のよし子、朱鷺雄の母・梅代、朱鷺雄の妹のつばめの四人暮らし。お隣の道子とも仲良くしながら、一見、平凡に暮らしている。

つばめは、四十一歳独身。同居している兄夫婦からは、変り者扱いされていた。実は、一家には悲しい過去があり、つばめもそれを引きずっていたのだ。

そんな、つばめが最近知り合った星野という青年。彼はさらに特殊な境遇の持ち主だったが、ふたりはお互いひかれあう。

つばめは過去の痛みを乗り越えて、星野を愛する決心をし、家族に紹介する。家族にも一応は受け入れられ、楽しい日々が始まるかと思われたが、突然、星野が遠いところへ行かなければならなくなる。星野と一緒に来てほしいとつばめに言うが、つばめは迷う。実は、母の言動が、あの、一家の悲しみの時以来、少しずつつじつまが合わなくなっており、最近、特にひどくなっているようだ。星野についていけば、すぐに戻れる保証はない。でも、星野とも離れたくない。つばめは、ともかくも結婚することで星野とつながっていたいと、兄夫婦に話すが、その最中に母に変化が訪れる。

過去の痛み、家族への思い、星野の境遇などを乗り越えて、つばめは、今度こそ幸せになれるのか。平凡な水沢家の人々が繰り広げる、フツーだけどフツーじゃない物語です。

舞台うす暗い。下手寄りに椅子が一脚あり、星野銀河が客席に背を向けて座っている。そこへ水沢つばめ登場（つばめには照明、星野の顔は見えない）

つばめ
ごめんね。

星野
（ちよつとすねて）また、あの部屋？

つばめ
やーねー。ほつといてよ。

星野
ほつといてるのは、そっちだろ。どうしていつも僕を置いて、あの部屋に行っちゃうの？

つばめ
え？

星野
僕もいっしょに連れてってよ。

つばめ
やだ、エッチ！

星野
エッチ？えー、エッチなところなの？

つばめ
やめてよ。

星野
一体、あそこで何してるの？

つばめ
だから、みんながしてることよ。

星野
みんなが？・・・。

つばめ
もしかして、マジ？

星野
・・・。

つばめ
いや、あの、だから、化粧室。

星野
化粧室？

つばめ
お化粧直したりとか・・・

星野
だって、どっかのおじさんも入って行ったよ。あの人もお化粧直してるの？

つばめ
他にもいろいろやることがあるのよ。

星野
いろいろって？

つばめ
うーん、人間としてかかせないことというか

星野
そんな重要な？

つばめ
うん、だから・・・考え事したり、ちよつと気分を変えたり、瞑想したり、哲学したり。あ、人によっては新聞読んだり、読書したり・・・

星野
ふーん。重要な文化的拠点だね。

つばめ
まあね。あ、なんかアイデアがひらめくこともあるし、そうだ！ご飯を食べる人もいるらしいよ。

星野
ずいぶん、便利なところだね。

つばめ
そうなのよ！便利なところなの。だから、あの、

星野
じゃあ、えーと、愛の告白もしていいの？

つばめ
え？さすがに、それは・・・。基本個室だし。まあ、絶対ないとは言えないけど・・・

星野
じゃあ、愛の告白は、どこですればいいの？

つばめ
え？そうねえ・・・例えば、こんな星空の下。

照明変わり、壁に星空が浮かび上がる。二人はシルエット。
音楽入る。星野、立ち上がり、つばめの手を取る。

星野

アパイピシピテペルプ。アパイピシピテペルプ。

音楽の中、二人去る。

明るくなる。春か秋の連休の日の昼過ぎ。水沢家のダイニングルーム。ダイニングテーブルとイスが3脚ある。下手側が玄関、上手側に階段（二階がつばめの部屋）、梅代の部屋、台所、お風呂場などがある設定（舞台上はダイニングのみ）
ダイニングテーブルに水沢朱鷺雄と水沢梅代が座っている。朱鷺雄は、湯飲み茶わんでお茶を飲んでいる。頭にはメガネ。梅代は、食べ終わった茶碗を持っている。上手から水沢よし子が登場し、下手の椅子をダイニングテーブルに戻す。梅代が茶碗と箸を置き、

梅代

ごちそうさまでした。

梅代、席を立ち、自室の方へ去る。朱鷺雄、何かを探すようなそぶり
りで、

朱鷺雄

よっちゃん、あれ、どこだっけ？

よし子

また、トイレに置いて来たんじゃない？

朱鷺雄

ああ、そうか。

朱鷺雄、下手に退場。よし子、茶碗をお盆にのせ、テーブルを拭き、
上手に去る。

朱鷺雄、新聞を持って帰って来る。よし子、上手から。

よし子

あったでしょ。もう、臭くなっちゃうわよ。

朱鷺雄

ごめん、ごめん。えーと、あれはどこだっけ？

よし子

頭の上。

朱鷺雄

ああ。（と、眼鏡をかける）それから、あれは、

よし子、水と菓を出す。

よし子

はい、菓。

朱鷺雄

おー！それと、

よし子

（すかさずコーヒーを出して）はい、どうぞ。

朱鷺雄

ありがとう。さすが、よっちゃん！

よし子

どういたしまして。

よし子、台所に下がろうとすると、

朱鷺雄　ところで、あいつはどうした？

よし子　さあ。

朱鷺雄　俺、しばらく姿を見てないよ。

よし子　ちゃんと生きてるわよ。

朱鷺雄　どんな様子なんだ？最近。

よし子　そう言えば、最近、いろんな姿で出ていくわね。

朱鷺雄　なんで？何やってるんだろ？

よし子　見当がつかないわ。まあ、不思議なのは今に始まったことじゃない気がするけど。

朱鷺雄　うーん。(間)　ねえ、昼過ぎだよ。

よし子　そうね。

朱鷺雄　いいのかな？

よし子　何が？

朱鷺雄　いくら連休でも。

よし子　ほっといてあげた方がいいんじゃないの？

朱鷺雄　そうかな？

よし子　でも、まあ、そんなに気になるなら、あなた起こしに行つて来れば？

朱鷺雄　え？やだよ、よっちゃん、行つて来てよ。

よし子　いやよ、寝起きのつばめちゃんは危険すぎるわ。

朱鷺雄　俺、まだ命が惜しいよ。

よし子　なによ。じゃあ私はどうでもいいってこと？(すごむ)
何言つてんの。よっちゃんあつての僕ですよ。

朱鷺雄

そこへ、梅代登場。

梅代　ねえ、ごはんまだ？

よし子　さつき3杯目を食べたばかりですよ。

梅代　あら、そうだったかしらねえ。

よし子　そんなに食べると、私みたいになっちゃいますよ。

梅代　おー、くわばらくわばら。

梅代去る。

よし子　お母さん、最近は一日中、あれよ。でも、時々普通に戻ったりするんだけどね。

朱鷺雄　まだらなんとかつてやつかな？

よし子　うーん。

つばめ、フラメンコ姿で階段側から出てくる。(肩の出る服は着ない。)
手拍子を打ちながら、かなりのハイテンションで踊るように

つばめ
アパイピシピテペルプ。アパイピシピテペルプ。オレ。

朱鷺雄、あつけにとられた顔で見ている。

よし子
つばめちゃん、おはよう。出かけるの？
つばめ
うん、寝坊しちゃった。菓子パンかなんか無い？
よし子
ちよっと待って。

よし子、台所に菓子パンを取りに行く。その間、つばめ、時間を惜しむように、踊りながら、

つばめ
アパイピシピテペルプ。アパイピシピテペルプ。

よし子、菓子パンが入っているらしい袋を持ってくる。

よし子
つばめ
はい、つばめちゃん。私のおやつだけど…。(ちよっと、惜しむように)
(踊りながら)グラシマス、ムチャス、グラシマス！おねえさん。オレ！
よし！ウオーミングアップもばっちり！行ってきます。(と袋を受け取る)
チャオ！
朱鷺雄
ベサメ・ムーチョ！

つばめ、戻って来て、朱鷺雄をひっぱたき、玄関側に去る。

朱鷺雄
えー、なんで？

よし子
朱鷺雄
ベサメ・ムーチョって、「私にいっぱいキスして」って歌じゃない。
え？そんな意味？唯一知ってるスペイン語だったのに。それにしても、
なんであんな格好？
さあ。

よし子
朱鷺雄
あいつ、いくつだ？
あなたの妹だから、アラフォー？
だよな。大丈夫かな？
よし子
朱鷺雄
そうねえ。でも、つばめちゃん、わりと似合ってたわね。
そうか？
つばめちゃんって、よく見ると結構美人よね。
・・・

よし子
朱鷺雄
人柄だってまあ、ちよっと変わったところあるけど、人と暮らせないって

程じゃないのに、どうして結婚しないのかしら？

朱鷺雄 うーん、俺もはつきり聞いたわけじゃないんだけどね、もしかしたら……

よし子 もしかしたら？

朱鷺雄 兄貴がいい男すぎるからかなあ？

よし子 は？兄貴って？

朱鷺雄 もちろん(オレだオレだのポーズでニッコリ)

よし子 はあ、ねえ。

朱鷺雄 もしかしたら……。おやじの事故のことが関係あるのかもしれないなあ。

よし子 お父さんの事故？

朱鷺雄 うん。まあ、今度、ゆっくり話すよ。今は、ちょっと出かけてくる。

よし子 あら、そうなの。どこへ？

朱鷺雄 うん、ちよつと……。

そこへ、梅代、登場。

梅代 あの、ご飯はまだですか？

よし子 お母さん！(ため息)

朱鷺雄、どさくさにまぎれて、玄関へ。そこへ、玄関から道子の声。

道子(声) 梅ちゃん、いる？

朱鷺雄(声) あ、おぼさん、いらつしやい。えーと、

道子(声) あら、おでかけ？いいのいいの、勝手にあがるから。

朱鷺雄(声) はい、じゃあ。

野本道子、ダイニングに入ってくる。

道子 お邪魔しますよ。梅ちゃん、聞いてよ。

梅代 こんにちは。えーと、どちら様？

道子 え？いやあねえ。隣の道子でしょ。とうとうボケた？

梅代 何言ってるの、あなたがボケてないか、試したのよ。

道子・梅代 ハハハハハ

よし子 あ、じゃあ、お茶いれますね？

よし子、台所側に退場。

道子 梅ちゃん、聞いてよ。うちの嫁ときたら、仕事仕事って。朝も夜もバタバタしてるし、孫もなんだかいつも忙しそうで

梅代 寂しいんでしょう？
道子 そんなんじゃないけどね。梅ちゃんとお嫁さんはどう？
梅代 （あたりを見渡して、小声で）ここだけのはなしだけど・・・
道子 なになに？
梅代 あんな、いい嫁はいないわよ。
道子 何よ。珍しいこと言っちゃって。
梅代 だって、こんな、姑も小姑もいるうちに来てくれて、いつも明るくて、頼りになって・・・

よし子、お盆にお茶と饅頭二つをのせ、部屋の入り口に入って来る。
道子、それに気付き、

道子 （耳に手をかざし）え？なんですって？もう一回言って
梅代 （大きな声で）だから、良い嫁なの。我が家の太陽よ。

よし子、一度、台所に戻る。

道子 （こそこそと）ちよっと、ほんとはどうなのよ？今ならダイジョブよ。
梅代 あら、本当に良い嫁よ。

よし子、お茶と5、6個の饅頭を皿にのせ戻って来て、二人の前に出す。

よし子 お母さん。私こそ、こんながさつでおつちよちよいなのに、朱鷺雄さんのお嫁さんにしていただいて。
道子 ま、仲がよくてうらやましいこと。（ちよっと、皮肉っぽく）
よし子 じゃ、ごゆっくり。

よし子、台所の方に去りかける。

梅代 でもね、ときどき、ご飯を作るのを忘れちゃうのよ。今日はまだ何も食べてないの、私。このおまんじゅうが私の主食よ。はい、みっちゃん、どうぞ（とおまんじゅうを渡す）。あとは全部私ね。

離れてみていたよし子が、

よし子 おかあさん！
道子 ハハハハハ。じゃあね。

道子、饅頭を持って玄関側に去る。梅代も饅頭を持って部屋に去る。

よし子

もう、おかあさんたら。道子おばさんにそんなこと言ったら、夕方には近所中から「姑にご飯を出さない嫁」って言われちゃうじゃない。そうだ！お買い物がてら、ちよつと、おばさんの様子チェックして来よう。

よし子、バッグを持って玄關側に去る。

舞台上誰もいなくなると、照明が少しずつ暗くなる。

薄暗い中、梅代が入ってきて、客席側上方をボーツと見ている。(客席側は窓がある設定)。梅代、静かに「夜の梅」(文部省唱歌 作詞者不詳 作曲 岡野貞一 著作権の切れた作品)を歌いだす。

梅代

(歌う) 梢まばらに咲き初めし 花はさやかに見えねども、
夜もかくれぬ香にめでて 窓はとぎさぬ闇の梅

歌の途中で、修道服のような上下がつながっている黒くてだぼつとした服のつばめが玄關から入って来る。

つばめ

梅代

つばめ

お母さん、星でも見てるの？

(ちよつと驚いて) どなたさんですか？

(顔を近づけて) あたしよ、あたし。

ああ、こんにちは。まあ、どこかでお葬式ですか。あ、お隣のみつちやん？お気の毒に……。

え？いや、違う違う。

私の主人、鷹雄さんもね、早くに亡くなったんですよ。

うん。

……。

そのご主人のこと、今でも思い出す？

思い出しませんよ。

え？

だって、思い出すのは忘れてるからでしょう。一度だって忘れたことなんてないもの。

うん。そうだよね。

そうよ。

ねえ、再婚しようと思ったことは無いの？

そうね、私はそういう風に心が動いたことはなかったですね。

うーん、そうよね。

でもね、いろんなこと、全部引き受けてくれる人がいたら、再婚したかもね。

へえ。

そうしたら、主人も、ほめてくれたかもね。

ふーん、そうか。

梅代、つばめ、二人で星を見る。

つばめ

ねえ、知ってる？星ってすごく遠いから、今見ている星の光は、みんな過去のものなのよ。たとえば、さそり座方向にある小さな恒星なんて、22光年だから、22年前の光が今届いているの。

梅代

そう。じゃあ、あの人が生きているときの星のピカリが、今、私に届いたということね。

つばめ

うん、そうだね。その上、その星の惑星の一つは、地球によく似たスーパーアースだって最近確認されたのよ。

梅代

スーパーアース？地球に似た星・・・。

二人で、ちよつとの間、星を見る。

梅代

どなたか存じませんが、素敵な話をありがとうございます。あなたも、お幸せに。

つばめ

つばめ、階段方向に去る。照明明るくなって、よし子、スーパーの袋を下げて玄関側から入って来る。

よし子

あら、お母さん。今誰かと話してました？

梅代

スーパーアース・・・。

よし子

惜しい！（スーパーの袋を見せて）スーパーアース！

よし子、スーパーの袋を台所に置きに行く。

梅代、階段の方へ去る。

よし子すぐ出てきて、テーブルを拭いたり、茶碗を並べたりする。

よし子

お母さん、いよいよ、ごはんですよ。朱鷺雄さんも遅いわね。

朱鷺雄の声

ただいま

朱鷺雄、玄関から入って来る。親指にばんそうこうを貼ってその指を高く掲げている。

よし子

お帰りなさい。なあに？なんかいいことでもあった？

朱鷺雄

え？

よし子

だって、その、イエーイポーズ。

朱鷺雄

逆だよ。なんか、さんざんだった。

よし子

どうしたの？どこ行って来たの？

朱鷺雄

カルチャーセンター、市民ホール、公民館って行ったんだ

よし子

へえ。それで？

朱鷺雄 足が疲れたよ。

よし子 そうでしょうね。それで、なぜ、イエーイポーズ？

朱鷺雄 いや、足が疲れちゃって、公民館の庭のベンチに座ったんだよ。

よし子 あら、あのベンチ、この間、犬がマーキングしてたわよ。

朱鷺雄 えー。(と、ズボンの尻や足元を気にする)

よし子 見たの、だいぶ前だけどね。

朱鷺雄 そうなの？いや、それでさあ、あの、ベンチ古いじゃん。

よし子 そうね、大地が小さいとき、一度、塗りなおしてたけどね。

朱鷺雄 いや、わかんないけど、で、木がさあ、

よし子 木？

朱鷺雄 うん、なんて言うの、ささくれているって言うのかな？あれが指にささっ

よし子 ちやって、抜いたら、血がドバツて

朱鷺雄 え？ドバツ？

よし子 まあ、結構一杯。

朱鷺雄 まあ、大丈夫？

よし子 うん、そばにいたおばあちゃんが絆創膏貼ってくれて、指を上にあげて

よし子 た方がいよいよっておしえてくれたんだ。だから、こうやって

朱鷺雄 こうやって？(同じポーズをする)

よし子 ずっと、こうやって帰って来たんだけどね、なぜかタクシーが次々止ま

朱鷺雄 っちゃって。

よし子 え？

朱鷺雄 あ、違いますっていうと、チツって舌打ちされたり、「馬鹿野郎」って言

よし子 われたり、散々だったよ。

朱鷺雄 あらまあ。

よし子 最後のなんて、銀色にもものすごく光ってて、何かそれを見たら、一瞬気が遠くなっちゃって。まずい出血多量かもって、ともかく自販機でなんか買って飲もうとしたらもういなくなってた。

よし子 ・・・

朱鷺雄 でも、あの時、一瞬、つばめを見たような気がしたんだけど、気のせいかな？

よし子 あなた、つばめちゃんが気になって探して歩いたんでしょ。

朱鷺雄 えー？何でわかったの？

よし子 カルチャーセンター、市民ホール、公民館。フラメンコやってそうな場所？

朱鷺雄 ひえー。

よし子 まったく、兄バカとでも言いましょうか…。だから、つばめちゃんに見えたんじゃないの。もう、つばめちゃん、戻ってるみたいよ。

つばめ階段側から登場。さっきの黒い修道服。
朱鷺雄、驚く。

つばめ あ、お兄ちゃん、後で話したいことがあるんだけど。あ、今日は帰り遅いから、明日でも。
朱鷺雄 話って？それより、何、その格好？またどこか行くのか？
つばめ うん、仕事。

つばめ、さらに、目だけ開いた黒い頭巾をかぶる。

つばめ 行ってきます！

つばめ、出てゆく。

朱鷺雄 あいつは、本当にどうなってるんだ？
よし子 さあ？

梅代、階段方向から出てくる。手には、白いシャツと怪しげな小さい袋。シャツには真つ赤なシミがある。(血に見える)また、袋には、細かいアルファベットとHERBみたいな文字が書かれている。(よし子たちの方からはよく見えない)

梅代 これ、汚れちゃってるけど、洗濯しなくちゃね。それに、これは食べられるかねえ。

よし子 え？何ですか？何？どこから持って来たの？

よし子、シャツを広げてみる。赤いシミを見て驚く。

よし子 キャアー、何これ？どこから持って来たの？
梅代 二階。

梅代、ふいと台所方向に去る。

よし子 つばめちゃんのかしら？

朱鷺雄 え？どういうこと？

よし子 まさか……。

朱鷺雄 え？まさかって？血？あ、そうだ、においをかいでみたら？

よし子 え？私が？

だっ、よっちゃんの鼻は最強だろ。

よし子 なんだ？

朱鷺雄 何でも、においをかいで、これはまだ食べられるとか、さすがに無理と

か、いつも言ってるじゃない。

よし子 えー。

よし子、渋々、においをかぐ。

朱鷺雄 何だった？

よし子 ダメ。もうすっかりにおいが無くなってる。

朱鷺雄 こっちは、Herbas(ハーブ)これ、何語だ？あ、こっち側にHERBって書いてあるよ。ハーブかな？

よし子 まさか例の危険なハーブじゃないでしょうね。

朱鷺雄 つ、つまり、どういうことだ？

よし子 わからないけど、なんか脱法ハーブを巡るトラブルとか？

朱鷺雄 えー？

つばめちゃんがあることするとは思わないけど、たとえば、だまされてハーブを使っちゃって、訳わからなくなつて、誰かを刺しちゃったとか？あ、友達をかばつてるとか？

朱鷺雄 そんな

よし子 うーん、だけどつばめちゃんてなんかいつも飛んでるからねえ……。

朱鷺雄 うーん。おい、どうする？

よし子 どうしましょう。あ、さっきの話したいことって、まさか。

朱鷺雄 え？

よし子 まさか。自首しようかどうかとか？

顔を合わせる二人。

一度、照明やや暗くなり、すぐ明るくなる。

朱鷺雄、よし子、落ち着かない様子でダイニングにいる。

つばめ、ピンクのTシャツに短パン、水鉄砲を手に帰ってくる。

かなり酔っている様子。

つばめ (へべれけで) たらいま。なあに、みんなまだ起きてたの？手を上げる！

朱鷺雄、よし子、思わず手をあげる。

つばめ アハハハハ。なあに、ノリノリじゃん。

朱鷺雄 は、話があるんだろ、聞こうじゃないか。

つばめ 明日でいいよ。

朱鷺雄 いや、今聞こうじゃないか。座りなさい。

つばめ、朱鷺雄、ダイニングテーブルに向かい合って座る。

朱鷺雄 うわっ、酒くさっ。

つばめ 浴びるようかというか、ホントに浴びちゃったのよ。ハハハ。まあ、仕事だから。

朱鷺雄

つばめ！

よし子、水を持ってきて、恐る恐るつばめの前に置く。
つばめ、水を飲む。

朱鷺雄

お前が言いたいことは大体察しがついている。

つばめ

え？ホント？

朱鷺雄

なんでそんなことに・・・

つばめ

なんでって、そうなっちゃたんだもん。

朱鷺雄

そうなっちゃったじゃないよ。お前にスキがあるから。

つばめ

スキねえ。あ、あんたも好きねえ、なんちゃって、キャハハハハ。

朱鷺雄

つばめ。

つばめ

あ、ごめんごめん。で、なんだっけ？

朱鷺雄

お前、いい年してどうしてそんなこと。

つばめ

本当、いい年だよ。私も恥ずかしい。

朱鷺雄

当たり前だ。いや、むしろ、年は関係ないか。

つばめ

そうでしょ。私も、そんな気もするのよね。

朱鷺雄

ともかく、大人としての責任をとらないと。

つばめ

そうね、やっぱり、そうかな。

朱鷺雄

そうかな？少しは反省しろよ。あんな大それたことして。

よし子

あなた、そんな言い方しちゃダメ。

つばめ

大それたこと？大それたことかな？お兄ちゃんも、お姉さんもしてるじ

やない。

朱鷺雄

馬鹿なこと言うな。そんなことするわけがない。

つばめ

え？何のこと？

つばめ

だから『結婚』『殺人』

つばめ

えー

つばめ

ちよつと待って。殺人って何？

よし子、シャツを見せる。

つばめ

やだ、これ、トマトまつりで汚れちゃったんで、捨てようかと思つてた

んだ。

朱鷺雄

トマトまつり？

よし子

聞いたことあるけど、え？日本で？

つばめ

うん。実は私、友達と便利屋とか何でも屋を始めたんだ。

よし子

何でも屋？ああ、それでいろいろな格好で出かけて行ったの？

つばめ

うん。でね、今スペインレストランから頼まれて、1カ月入ってるのよ。

朱鷺雄

スペインレストランねえ。

つばめ

そのレストラン、今月は、スペインのお祭りシリーズで、いろいろなお

よし子
つばめ
祭りのミニ版をやっているの。スペインって変なお祭りがいっぱいあるのよね。で、先週は、トマトまつり。
トマトまつりって、熟したトマトをぶつけあうんでしょ。
そうそう。一応、ビニールのカッパは着てたのよ。でも、結局こんなに汚れちゃって。

よし子
つばめ
ということは、さっきの怪しい格好も？

朱鷺雄
つばめ
そうよ。カバニヤルのセマナサンタのプロセシオン。

朱鷺雄
つばめ
かば焼き？サンマ？プロセスチーズ？

つばめ
食い意地が張ってるね。違うの。カバニヤルという場所の、セマナサンタという聖なる週間に行われる、宗教行列の衣装だって。
はあ？そう。で、今の格好は？

よし子
つばめ

これは、ハロというブドウの産地のワインファイト。ワインをかけあうの。白いTシャツがすっかりワイン色。身体の中も外もワインまみれよ。受けるでしょ？

あら、まあ。スペインって・・・。

この中もワインよ。(と、水鉄砲の中身を口に吹き出そうとする)

朱鷺雄
つばめ
やめなさい。

つばめ
あら、これ、けっこうおいしいのよ。

朱鷺雄
つばめ
まったく。じゃあ、この、怪しいものは？

つばめ
ああ、それは、そのスペインレストランでもらったマンサニージャとテイラをブレンドしたハーブティー。

朱鷺雄
つばめ
マッサージとテラ？

マンサニージャとテイラ。スペインでは、食後に、腹痛に、風邪のひきかけについて何かあると、マンサニージャを飲みなさいって言われるんだって。テイラは鎮静、催眠効果があって、子どもにも青年にも、大人にもそれ以外にも効果てき面なんだって。

それ以外？

よし子
つばめ
やーね、言葉のあやよ。心が落ちつくわよ。今、いれてあげましようか。

そうそう、デトックス効果もあるんだって。綺麗になるわよ、お姉さん。

あら、そうなの？

(きつぱりと) いや、遠慮しておくよ。

じゃあ、もういい？私、寝るわよ。よつぱらだから。

ちよっと待って。さっき、結婚って言わなかった？

そうだよ。お前、まさか、結婚するの？

うーん。プロポーズされたのよ、まだ、迷ってるけど。

それを早く言えよ。

だから、話そうとしたんでしょ。それを、お兄ちゃんが変なこと言うから。

まあ、よかったわね。おめでどう。

まだ、早いよ。迷ってるんだろ？

よし子
朱鷺雄

つばめ　そう。でも、ともかく明日、挨拶に来るって言ってるのよ。どう思う？
朱鷺雄　どう思うって、明日？えー、ずいぶん急だな。

よし子　どんな方なの？

つばめ　うーん、それが。実はずっと日本以外で暮らしてたらしくて、まだ完全に日本になじんでないと言うか・・・。

朱鷺雄　外国人か？

つばめ　いや、そういうわけでもないんだけど。

朱鷺雄　何？

つばめ　いやいや、日本人だよ。うん、うん。というか日系？

朱鷺雄　何してる人？

つばめ　今は、一緒に何でも屋をやってる。もともとは、人間の研究というか・・・。
よし子　文化人類学みたいなもの？それとも、心理学？

つばめ　まあ、その両方を兼ねた感じかな？多分。その意味もあつての何でも屋なの。

よし子　ふーん。なんか、かっこいいわね。

朱鷺雄　そうか？大丈夫なのか？

つばめ　何が？

朱鷺雄　なんか、だまされてるとか。たとえば、お前の貯金目当てとか。

つばめ　残念ながら、私、貯金ゼロ。

朱鷺雄　そうだよな。でも、もしかして秘密があるかも。元は女だったとか、男だけど女装が趣味とか、実はすごい年とか、本当は人間じゃないとか。

つばめ　え？

よし子　あなた、言い過ぎよ。ごめんなさいね。

つばめ　いいよ。まあ、ともかく明日、会ってみてよ。文句はそれから。（あくびをして）ごめん、私もう寝るね。

つばめ、階段方向に去る。

朱鷺雄　いやー、こんな日が来るとはね。なんか複雑な気持ちだな。

よし子　ねえ、朱鷺雄さん、さっきの話。

朱鷺雄　さっきの話？

よし子　だから、つばめちゃんが、今まで結婚しなかった訳よ。

朱鷺雄　うーん、ちよっと長くなるよ。いい？

よし子　だって、あなた、どうせすぐ寝られないでしょう？

朱鷺雄　ちよっとね。

よし子　ホットミルクでも飲む？（と、立ち上がる）

朱鷺雄　うん。

よし子、台所の方に去る。

朱鷺雄 さっきのハーブテイー、もらっておけばよかったな。何って言ったっけ。マッサージと寺だっけ？確かに眠くなりそうだな。

朱鷺雄は、舞台上手前方に座り込む。
よし子、マグカップ2つを持って出てきて、朱鷺雄に渡す。
よし子も隣に座り、二人で、ホットミルクをすすする。

朱鷺雄 ……あれはもう20年以上前かな、おやじの事故。
よし子 私が市役所に入る前の年って聞いたわよ、21年前かな。
朱鷺雄 そうか、そんなになるか。じゃあ、俺は市役所入ってすぐくらいかな。
よし子 うん。

朱鷺雄 俺は理系じゃないからよくわからないんだけど
よし子 あら、あなた、文系だったの？
朱鷺雄 というか体育会系。

よし子 え？あなたが？
朱鷺雄 そう、弓道部(どや顔)
よし子 まあ、確かに、体育会系ね。それで？
朱鷺雄 よっちゃあんも、色々な人から聞いてると思うけど、事故と言っても交通事故じゃないんだ。

よし子 ええ、なんか、大変だったんでしょ。
朱鷺雄 うん。おやじは理系の大学の教授でね、実験中の爆発事故で亡くなったんだ。あとで聞いた話では、おやじは物理が専門だったのに、その日はなぜか専門外の化学(ばけがく)の実験で事故が起きてしまったらしい。
よし子 まあ……。そうだったんですか。
朱鷺雄 被害はかなりひどかった。爆風で実験装置も人間もすべて壁に叩きつけられた上、その後火事になって、大やけどを負ったんだよ。
よし子 まあ……

朱鷺雄 病院に運ばれてまもなくおやじは亡くなった。あの事故以来、おふくろも、まだ若かったのに、少しずつおかしくなったんじゃないかと思うよ。
よし子 まあ……。あなたも、お母さんも、つばめちゃんもどんなにつらかったことでしょう。
朱鷺雄 うん。

朱鷺雄 つばめちゃん、そのショックが抜けないのね。
よし子 いや、話はそれだけじゃなくて、実はそのおやじの事故の時、つばめも現場にいたんだよ。

よし子 えっ！
朱鷺雄 つばめはおやじに似たらしく、りけ女だね。
よし子 理系の女子ね。

朱鷺雄 そう、おやじに憧れておやじの大学に入ってね、昼も夜も研究室にいたよ。たまに慌ただしく帰って来たと思うと、シャワーとか着替えとか必

よし子

要な用事を済ませたら、またすぐに行っちゃうんだよ。りけ女って大変なのね。

朱鷺雄

らしいね。

よし子

それで、お父さんの実験を手伝っていたのね。

朱鷺雄

まあそうなんだけど、まだまだ話は続くんだ。

よし子

どういうこと？

朱鷺雄

おやじの助手に、山川樹（やまかわいつき）さんという人がいたんだよ。

その人もきつと同じような生活だったんだろうね。朝から晩まで、同じ

目標に向けて研究生活を続けているうち、山川さんとつばめは

よし子

恋に落ちたのね？

照明暗くなる。舞台下手につばめと星野登場。つばめにだけ照

明当たる。（星野は、はっきり見えない）よし子、朱鷺雄は機を

見て退場。

つばめ

あの事故の時、研究室には、お父さんと、山川さんと、私だけだったの。

理由はわからなかったけど、なるべく最小限の人数で実験したいってお

父さんが。

うん。

星野

つばめ

私、なんかわくわくしてた。なんか、特別って感じで。

星野

うん。

つばめ

山川さんもいつもと違ってた。私のような浮ついた感じじゃなくて、何

かきりつとして。覚悟？みたいなものを感じたの。

星野

うん。

つばめ

実験が始まる直前、山川さん、ちょっと照れくさそうに、でも、とても

真面目に「この実験がうまくいったら、聞いてほしいことがある」って。

照明と音響で爆発事故のイメージ。

つばめ、耳をふさいでしやがみ込む。

つばめ

突然だった。私、何が起こったかわからなかった。気がついたら、山川

さんが私の背中におおいかぶさって、ぐったりしていた。「山川さん、山

川さん」って呼んだら一言、「指輪」って。

・・・

星野

つばめ

すぐに救急車が来て、その時初めて、お父さんと山川さんの姿を見たの。

服も皮膚も焼け焦げた・・・

星野

つばめ

病院に運ばれてから、私も骨折していることと肩のやけどに気がついた。

山川さんがかばってくれたからそれだけで済んだの。

星野

うん。

つばめ

病室に兄さんが来て、椅子に腰かけたままずっと黙ってた。言葉が見つからなかったんだろうね。「お父さんも、山川さんも……」って思った。

星野

……

つばめ

あとから、警察の人に聞いてもらったなら、山川さんのポケットにスエードの布を張った箱だったようなものがあつたって。でも、指輪は見つからなかったみたい。

星野

そう。

つばめ

だけど、私の肩にはやけどが残った。彼が命と引き換えに、私に残してくれた愛のしるしが。そのやけどを見るたび、私の背中に山川さんを感じるの。

つばめ、肩を出そうとする。星野、その手を止める。

星野

そんな大切なことを僕なんか話してくれて本当にありがとう。

(間)

つばめ

その時、誓ったの。「この先どんな人とも結婚しない」って。

(間)

星野

ねえ、つばめ。僕は「どんな人」に当てはまるのかな？

つばめ

……(ほほ笑む)

星野

君が背負って来たものすべて、山川さんの命を懸けた愛と、君の肩のやけどと、21年分の思いを全部ひっくるめて……君の背中を抱いてもいいですか？

つばめ

……

星野

だめ？

つばめ

そういうときは黙って来てよ。

星野

え、そうなの？

つばめ、うなづく。星野、後ろからつばめを抱く。

星野

アパイピシピテペルプ、アパイピシピテペルプ。

つばめ、振り返る。

つばめ

アパイピシピテペルプ。

シルエットで、キスをする二人。暗転。(二人退場)

徐々に明るくなる。明るくなったら、よし子が、コーヒーカップなど皿にのせて出てくる。テーブルに準備する。(よし子、少しおしゃれな格好)その後、朱鷺雄スーツ姿で、ネクタイを締めながら出てくる。

朱鷺雄　ねえ、よつちゃん、服、これでいいかな。

よし子、手を止め、朱鷺雄を見る。

よし子　うん、いいんじゃない。ステキ素敵(パチパチと手をたたく)
朱鷺雄　いやあ、それほどでも。でも、これじゃ、威圧感が足りないかな? いったいそのこと、タキシードでも着てやるか。いや、待てよ、お前のことなんか大して気にしてないよという思いを込めて、もっとラフな格好のほうが・・・。

よし子　何ブツブツ言ってるのよ。それでいいわよ。
朱鷺雄　そっか。

よし子　ねえ、あなたがうちに挨拶に来た時はどんなだったっけ?

朱鷺雄　うーん、全然覚えてないなあ。緊張してたし。

よし子　そんなもんよ。つまり、あんまり突飛な格好でなければいいってことじゃない?

朱鷺雄　ああ、そうだ、あの時、僕が部屋に入ったら、お父さんが泣いてたんだよ。「えー、もう?」って焦ったんだけど、よく聞いたら、たまたまテレビでやってた「E.T」の映画を見て、泣いてたんだって。でも、あれ、今思うと意外なカウンターパンチだったんじゃないかな?

よし子　考えすぎよ。父はああいう映画が好きだったのよ。

朱鷺雄　そうかな?

よし子　ねえ、そんなことより、コーヒーでいいのかしら? それとも、お寿司とビール?

朱鷺雄　コーヒーでいいんじゃないか? まずは、話を聞かないと。お寿司とビールは場合によってだね。

よし子　まあ。でも確かに、酔っ払っちゃって、肝心なことを言い忘れる人もいるもんね、誰かさんみたいに。

朱鷺雄　え? 誰のことだっけ? (と、とぼける)

よし子　ねえ、あなた、つばめちゃんのことになるとすごく心配性だけど、多少、あなたが気に入らない人でも短気をおこしちゃだめよ。つばめちゃんがせっかく、あんな辛い経験を乗り越えてその気になりかけてるんだからね。

朱鷺雄　わかってるよ。

よし子　じゃあ、テストよ。例えば、相手が外国人だったら? ボブ・サップみたいな。

朱鷺雄　　ボブ・サップ？むしろ、何も言えないよ。
よし子　　ああ、そうか。じゃあ、金髪鼻ピアスは？
朱鷺雄　　えー、俺、そういうのはちよつと・・・。
よし子　　あなた
朱鷺雄　　わかつたよ。うーん、認める。
よし子　　じゃあ、よぼよぼのおじいさんは？
朱鷺雄　　うーん、まあ、いいんじゃないか。人生経験豊富そうで。
よし子　　じゃあ、ホームレスの人は？
朱鷺雄　　うーん、うーん。まあ、うちに住まわせて、風呂に入れて、仕事を見つけてようじゃないか。
よし子　　あなた、えらいわね。（パチパチと拍手。）

梅代、自室から出てくる。

梅代　　今日はなんだか賑やかねえ。あら、どうもこんにちは。
よし子　　お母さん、もうすぐお客さまがみえますよ。
梅代　　あら、どなたかしら？（と言いながら、テーブルに着く）
よし子　　（朱鷺雄に）どうする？
朱鷺雄　　しかたないでしょ。

ピンポンとチャイムの音。ダダダと階段降りる音がして、つばめ階段側から登場。ダイニングを通過して「はい」と玄関に迎えに出る。（つばめの服は普通の女性らしい服）
緊張する朱鷺雄とよし子。つばめ、入って来る。その後から、道子がついてくる。

道子　　あーら、皆さん、おそろいで。
朱鷺雄　　おぼさん！
よし子　　どうして、今日に限って、ピンポン押したんです？
道子　　気分よ、気分。（梅代に）うーめちゃん。

と、道子、梅代の隣の席に座る。

梅代　　まあ、お客様、いらっしやいませ。
道子　　やーねえ。
梅代・道子　　ハハハハハ
朱鷺雄　　あの一、おぼさん。今日はちよつと・・・
道子　　ねえねえ、最近、この辺で、すごくピカピカ光った乗り物、見ない？多分、銀色の。
朱鷺雄　　あー、僕も見ました。昨日。

道子 やっぱり。あれ、何かしらね？
朱鷺雄 僕は、タクシーかと思いましたが。こうやってたら（と、立てた親指を高く掲げる）近づいて来たから？

道子 タクシーってことはないでしょ、多分、スーパーカーって奴じゃない？
いや、スーパージェットター？

朱鷺雄 スーパージェットター？
まあ、ともかく速いのよね。

道子 そうそう、あんまり速くって気づいたときには、もういないみたいな……
道子 そうそう。気づいたら、銀色の残像みたいな……。

梅代 空襲よ。

道子 えー？戦争？どうしましょ。
朱鷺雄 いやいや、落ち着いて。

つばめ、その会話中、微妙な表情。そこへ、ピンポンと鳴る。
つばめ、玄関方向へ。

道子 防空壕、掘ったほうがいいかしら？
梅代 今はシェルターって言うんでしょう。
朱鷺雄 いや、だから、落ち着いて。

つばめ、戻ってくる。その後ろから星野入って来る。ほどほどに若く
きちんとした身なりをした（可能な限りの）イケメンで日本人に見える。

つばめ ご紹介します。星野銀河さんです。

一瞬、間。

道子 まあ、いい男。
よし子 あつ、いらっしやいませ。

と、星野、突然、床にひれ伏し、

星野 このたびは、お母様、お兄様、お姉さま、えーと……（梅代と道子を見る）

道子 あ、道子、道子。
星野 えー、このたびは、お母様、お兄様、お姉さま、道子様のご尊顔を拝し、

恐悦至極に存じます。手前、姓は星野、名は銀河。稼業、未熟の駆け出し者。以後、万事万端、よろしうお頼の申します。（深々と頭を下げる）
朱鷺雄 （お控えなすってポーズで）ご丁寧なごあいさつ、痛み入ります。手前、

よし子
朱鷺雄
よし子

粗忽者ゆえ、粗相ありましたる節は、まっぴらにご容赦願います。
あなた！
あ、ついつられちゃったよ。
まあ、どうぞ、おかけになってください。

よし子、星野とつばめに椅子をすすめる。
星野、どう？という顔でつばめを見る。つばめ、苦笑。

朱鷺雄
道子

あのー、おばさん・・・。
そう、つばめちゃんの？素敵じゃない。ちよつと変わってるけど。お似
合いよ。どーも、失礼しました。オホホホホ。

道子、玄関側に去る。

朱鷺雄
よし子
朱鷺雄
よし子

また、うわさの種を提供しちゃったよ。
いいんじゃない？おめでたいことだから。
いや、まだ決まって無いから。
(ぼそつと) 往生際の悪いこと。さ、あなたも。(と道子がいた梅子の隣
の席を朱鷺雄に勧める)

よし子、コーヒーを配る。星野、においをかぎ、砂糖とミルクをド
バっと入れる。あつけにとられる、よし子。

つばめ

ごめんね、なんか、特定の缶コーヒーかハーブティー以外は苦手らしい
の。

よし子
つばめ

あら、じゃあ、この間のハーブティーを入れる？
いいの、いいの、大丈夫よね。

星野
つばめ

はい、お姉さまには格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。
もつと、普通にしゃべっていいのよ。

星野
つばめ

超ヤベェ。マジ、半ばねえ。エモーい、きゅんです。
そんな言い方してないでしょ。(兄たちに) ごめんね、なんかテンパッチ
やっつて。

よし子
朱鷺雄

緊張するわよね、みんな、そうよ。ね、あなた。
ま、まあね。

よし子
星野
つばめ

それで、お二人はどこで知り合ったの？
図書館というところです。
そうそう。はじめて、星野さんを見たとき、彼、松谷みよ子の「あかち
やんの本」を指でたどりながら読んでたのよ。見かけはかっこいいのに
変な人だなんて思った。でもすぐにグレイドアップしたみたいで、何度
か見かけたけど、「大きな大きなせかい」という絵本を読んできたかと思

うと埴谷雄高（はにやゆたか）の「死霊（しらい）」を読んでたり、「ニ
ュートリノ天体物理学入門」を読んでもあった。なんか、私、気
になっちゃって、図書館に行くついで、彼を探すようになっちゃったの。
よくわからんけど・・・

朱鷺雄
よし子
（朱鷺雄に）いいから

星野
つばめ
僕も、つばめさんのこと、よく勉強する人だと思ってました。

つばめ
あの頃はプーターローだったから、よく図書館で暇つぶしてたんだ。

星野
ある日、たまたま空いてたので、つばめさんの隣に座ってみました。

朱鷺雄
まったく。（小声で）

よし子
あなた！（小声で）

つばめ
でも、二人ともずっと黙ってたのよ。

星野
そうそう。

つばめ
二時間くらいそうしてたかな？私、眠くなっちゃって、知らないうちに
彼の肩にもたれて寝ちゃったの。えへっ、よだれたらしながら・・・。
僕、なんか不思議な気持ちじゃ湧きあがって来て、あったかいような、何
とも言えない・・・。ともかくこのままで居たいような気がして、動か
ないでじっとしてたら、やっぱり眠くなっちゃって、ついうとうとと・・・
はっと気がついたたら、図書館の司書さんとか、何人かの人が取り囲んで
微妙な顔してたのよね。

星野
恥ずかしかったね。

朱鷺雄
なんだよ、それ？まさか、それで恋に落ちたとか言うんじゃないだろう
な？

つばめ
ええ、まあ。

星野
たぶん。

朱鷺雄
あくばかばかしい！

よし子
もう、あきらめなさいよ。ステキじゃない。

朱鷺雄
そうか？母さんはどう思う？

梅代
え？なあに？

星野、突然、梅代と一本の指と一本の指を合わせ、しばらく無言で
語り合う様子。梅代、指をはなし、星野に

梅代
ありがとう。

梅代、涙ぐみそうな様子でつばめの手を握る。

つばめ、おめでとう。お母さん、とっでもうれしいわ。

やっど、いい人と巡り会えたんだね。良かったね、本当に、良かった。

えー？E.Tかよ。

お母さん……。ありがとう。

朱鷺雄
つばめ

朱鷺雄 あの一？
つばめ あ、あのね。星野さんは、なんていうか、魂で生きてるのよね。
よし子 R O C K ね。ええ、わかったわ。つばめちゃん、おめでとうございます。
朱鷺雄 なんかも、おもしろくない！
よし子 あなた！
朱鷺雄 ふん。
よし子 まあまあ、さあ、お寿司にしましょう。ほら、あなた、ビール、ビール。
朱鷺雄 ふん。

照明徐々に暗くなる。

つばめの声 ちよっと、送って来るね。
よし子の声 またいつでも、おいでくださいね。

明るくなって、朱鷺雄テーブルに座っている。よし子戻ってくる。

よし子 あなた、おつかれさまでした。

よし子も、テーブルにつく。

朱鷺雄 うーん、なんかおもしろくない。
よし子 まだ言ってるの？すぐまっとうな青年で、文句のつけようがないじゃない。
朱鷺雄 そりゃあ言い過ぎだろう。変だろ、あれ。

よし子 確かにちよっと変わってるところもあるけど、つばめちゃんとは合うんじゃない？きちんとしてて、やさしそうだし。何よりつばめちゃん、幸せそうじゃない。
朱鷺雄 けっ！

よし子 それにイケメンだし。
朱鷺雄 そうか？俺の方がよっぽどイケメンだろ？
よし子 はいはい、あなたが一番。

(どや顔)

よし子 それに何よりも、おかあさんと完璧に心が通じてたみたいじゃない。
朱鷺雄 うーん。
よし子 あれは特殊能力よね。
朱鷺雄 おふくろまで・・・。そこがまた、悔しい。
よし子 ま、あなたったら。
朱鷺雄 でもさ、本当はちよっと嬉しいんだ。よっちゃん、ありがとう。
よし子 私は、なにも。
朱鷺雄 ううん、ここまでこられたのも、みんな、よっちゃんのお陰だよ。

よし子 え？

朱鷺雄 あの事故以来、我が家はすっかり沈んじやって。その雰囲気が変わる最初のきっかけがよっちゃんだよ。

よし子 え？私。

朱鷺雄 よっちゃんの明るさが我が家をすくったんだよ。それにおふくろに孫も見せてくれた。大地は、水沢家の希望になった。今や、どこで何してるかわからない希望だけどね。

よし子 そんな、普通に、下宿から大学に通ってるでしょ。

朱鷺雄 どうだかな？連休だっていうのにちっとも帰ってこないし。まあ、それはさておき、つまり、よっちゃんこそ、我が家の太陽なんだ。

よし子 とつくん、ありがとう。

朱鷺雄 いやあ（と照れる）

よし子 実は昨日、お母さんにも、そう言われたわ。

朱鷺雄 え？おふくろが？

よし子 うん。我が家の太陽だって、道子おばさんに言ってたの立ち聞きしちゃった。でも、そのあとすぐに、ご飯作ってくれない嫁だとか言っちゃうのよ。

朱鷺雄 うわー、もう、近所中がそう思ってるよ。

よし子 でしょうね、まったく。でも、それでも、うれしかった。

朱鷺雄 うん。いやー、なんかちよつと、飲みなおそうか？

よし子 いいわね。

朱鷺雄 よし、じゃあ、その前にひとつ風呂浴びてこようかな。

よし子 そういうかと思って、お湯、入れておいたわよ。

朱鷺雄 さすが、我が家の太陽。お湯まで沸かすか。

よし子 どうだ、まいったか。

朱鷺雄、笑いながらお風呂に消える。

よし子

あ、しまった！あの人の好きな切れてるチーズが切れてたわ。
コンビニ、コンビニ。

よし子、カバンか財布を持ち、玄関方向に去る。

つばめ、帰って来る。

つばめ

（独り言）星野さんは「どんな人」からはずしていいかな？山川さん。

携帯電話の着信音。つばめ、出る。

つばめ

うん、今戻って来たところ。こちらこそ、ありがとう。

うーん、それはまだ言えないかな。おいおいね。

まあ、今の世の中、国際結婚は当たり前だし、同性同士の結婚だって認められつつあるんだから、いせい間なんてノープロブレム。
え？赤ちゃんができたら？大丈夫よ。兄さんの子だって、生まれたときはE・Tみたいな顔してたわよ。ほんとよ。

それより仕事はどう？はかどってる？例の凶鑑。ちよつとでも、役にたてるように、何でも屋、頑張ってるんだからね。

そうか、もう一つ、任務があったんだよね。え？そうなの？可能性が出て来たの？よかったね。え？複雑？なんで？

ああ、うん、ありがとう。あいさつの勉強、いろいろしてくれたのね。私ももっと練習しなくちゃね。ワタパシピハパ、ツプバパメペ、ツプバパメペ。

アパイピシピテペルプ。ね、どう？うん。

それじゃあ、おやすみ。アパイピシピテペルプ、チュ！（電話にキス）

つばめ、階段方向に去る。

梅代、登場。何か考え込んでいる。

梅代

アパイピシピテペルプ。アパイピシピテペルプ。

梅代、眩きながら、何かを考えている。

ゆっくり暗転。梅代、退場。

少し間あって、ビービービーみたいなやかましい警報音が響く。

つばめ、耳を押さえながら、ダイニングに入って来る。

つばめ

うるさい、何、この音？

星野、反対側から登場。舞台上は暗いまま。二人にだけ照明。

星野

つばめ、つばめ

つばめ

え？星野さん？どこにいるの？

星野

うちだけど、それよりつばめにもこの音、聞こえてる？

つばめ

うん。何この音、頭おかしくなりそう。

星野

本部からの呼び出しなんだ。待って、なんとか小さくしてみる。

星野、何か気合で頑張ってる様子。警報音小さくなる。

星野

僕とつばめの距離が近くなりすぎて、僕に送られてる警報音がつばめにも聞こえるようになったみたい。

つばめ

え、なにそれ？なんとかならないの？

星野

僕が返事をすればすぐおさまると思うけど、

つばめ 返事？

星野 実は僕、地球時間の三日後に帰らなくちゃならなくなった。

つばめ え！

星野 この警報音がなかったら、速やかに帰還するという規則なんだ。多分、本部の都合で、任務の進捗状況を把握する必要ができたんだろう。

つばめ そんな、急に。でも、すぐ戻って来るんでしょ？

星野 なんとも言えないよ。急に担当替えになるかもしれないし。

つばめ そんな。ねえ、返事だけしといて、先延ばしにしちゃえば？

星野 そんなことしたら、異常事態とみなされて、宣戦布告ってことになりかねないよ。

つばめ なんてこと！

星野 ねえ、つばめ、僕と一緒に来てくれない？

つばめ え？

星野 君と離れたくないんだ。

つばめ 私だって。でも、でも・・・、良いのかな、私。

星野 え？

つばめ もう少しだけ、考えさせて。

星野 つばめ！

つばめ 私にもいろいろあるのよ。でも、ともかくそれまでに結婚式はあげましよう。もし、すぐには一緒に行けなくても、必ず、二人は結ばれると信じて。

星野 つばめ！

星野

星野、つばめ、駆け寄って抱き合う。

つばめ あれ？私達、別々の部屋から話してるんじゃないかなかった？

星野 いいじゃない、イメージ、イメージ。

つばめ じゃあ、早速、お兄ちゃんたちに話さなくちゃ。

星野 僕も、きちんと確認したいことがある。

二人また、抱き合う。暗転。警報音消える。二人退場。

明るくなると、朱鷺雄とよし子がダイニングテーブルについて、お茶を飲んでいる。

よし子 昨日から、お母さん、元気がないのよね。ご飯の時しか、ご飯を食べてないのよ。

朱鷺雄 それは、おかしいな。

よし子 どうしたのかしら。

朱鷺雄 いつから？昨日、あいつが来た時は、元気だったよな。

よし子 星野さんでしょ。でも考えてみるとあの後から元気が無くなったような。

朱鷺雄

風邪でもひいたかな？

よし子

せきもしてないし、熱は無いみたいなんだけどね。なんか、部屋にこもって、パパパとかピポピポとか言ってるのよね。

朱鷺雄

えー。だ、大丈夫かな？

よし子

うーん、でも、ご飯の時しかご飯を食べないのって、異常と言える？

朱鷺雄

そうだな。病院で説明しづらいよな。』「はんのときしか、ご飯を食べないんです」『はあ、それが何か？』って。

よし子

そうでしょ。それに話しかければ会話は成立するのよ。ただ、一人になると、パパとかピポピポとか言ってるだけで。

朱鷺雄

そうか、どうしたらいいのかな？

よし子

まあ、もうちよつと、様子をみましょう。私も、気を付けてみるから。

朱鷺雄

頼りにしてるよ。

よし子

はいはい。

朱鷺雄

ところで、つばめは？今日もまた、起きてこないなあ。よつちゃん、見

よし子

てきてよ。

朱鷺雄

だから、私は嫌だって。あなた、行って来てよ。(と、朱鷺雄を押し)

よし子

僕には無理だって。よつちゃん、行って来てよ。(と、よし子をたたせようとする)

朱鷺雄

あなた。

よし子

よつちゃん。

朱鷺雄

よつちゃん。

いつの間にか、二人立って押し合いをしている。その姿はまるでイチャイチャしているよう。そこへ、つばめ階段側から登場。普通の女性らしい格好をしている。

つばめ

(咳払い後、大きな声で)二人で何やってるのよ。朝っぱらから。

よし子

ああ、驚いた。

朱鷺雄

何でもないよ。それに、もう昼過ぎだぞ。

つばめ

うん、ゆうべ、眠れなくて。あのね、お兄ちゃん

と、ピンポンとなる。

つばめ

あ、来ちゃった。

と、玄関に急ぐ。

朱鷺雄
よし子
朱鷺雄

え？誰？
さあ。星野さんかしら？
なんでまた？

つばめより先に、道子入って来る。続いてつばめ。

道子

玄関、開いてないんだもん。

よし子

(思わず)すみません。

道子

あら、やだ。いいのよ。それより、ゆうべ、夜中に、ビービービー
うるさくなかった？

つばめ

え？聞こえたんですか？

道子

聞こえたわよ。つばめちゃんも？

朱鷺雄

何の話です？僕は全然、気がつかなかったけど。

よし子

私も。

つばめ

あの、えーと……。

道子

うちのバカ孫がこっそり、なんかニコタマとかニコナマとかいうのを見
ようとして、目覚ましをかけてたらしいの。でも、自分はちっとも起き
ないで、グーグー寝てるのよ。こっちは年寄りで眠りが浅いから、すぐ
目が覚めちゃって、まったく迷惑よ。ねー。

つばめ

あー、そうだったんですか。ははは。

道子

つばめちゃんにまで、聞こえてたなんて、ごめんなさいね。

つばめ

ああ、いいえ。

よし子

なんか、眠れなかったんですって。

道子

まあ。もしかして、おそーい春ってやつ？

よし子

おばさん！

また、ピンポンとなる。つばめ、玄関方向に走る。

道子

あらあら、もしかして？

つばめ、星野を伴って入って来る。星野、入って来るなり、床に手を

ついて、

星野

お兄様、お姉さま、ご尊顔を拝し、恐悦至極……

道子

道子、道子。

星野

おー、道子様も、恐悦至極……

朱鷺雄

いいから。くるしゅうない、近こう寄れ。

星野、立って、勧められた椅子に座る。

よし子
つばめ
道子

あら、通じたのね。
あの、おばさん……。
あら、およびじゃない？こりやまた失礼しました。

道子、つばめのことをちよつと、ひやかして、玄関側に去る。

星野
朱鷺雄

えー、本日はお日柄も良く、雨降って痔が痛い……
え？

星野
つばめ

あ、いや、人生には大切な3つの袋がありまして、一つは池袋……
あー、まどろっこしいから、私から言うね。私達、結婚することになりました。

朱鷺雄

えー、本当に？決めちゃったの？

よし子

あなた！お二人とも、おめでとうございます。それで、いつごろ？

つばめ

あさつて。

朱鷺雄

あさつてっていつだっけ？

つばめ

だから、明日の次の日よ。

朱鷺雄

えー、あさつて？

よし子

そんな、ずいぶん急ね。

朱鷺雄

（怒つて）なんでお前はいつも、勝手にそういうことを決めるんだよ。ダメだ！いくらなんでも急すぎるだろう。

つばめ

ごめん、お兄ちゃん。実は……星野さんのお母さんの具合が悪くて、星

朱鷺雄

野さん、すぐに帰らなくちゃならなくなったのよ。

よし子

そうか。そりゃあ、心配だな。

朱鷺雄

大丈夫なんですか？

星野

ええ、まあ。
でも、だからって、すぐに結婚しなくても、落ち着いてからでいいんじゃないか？

つばめ

でも、星野さんのご両親、う、えーと、確かウニベルソとかいう地図にも

のつて無い小さな小さな島に住んでるだつて。そこまで行くの、すごく大変で、すぐには戻って来られないんだつて。

だから、つばめちゃんも、一緒に行きたいのね？

行きたいよ！でも、でも……。

もしかして、お母さんのこと？

よし子

……うん。お母さん、今でもあんなだから、これからもつと大変なこと

になるかもしれないじゃない。私がいなくなったら、ショック受けるだろうし。そしたら、余計……。お兄ちゃんや、お姉さんだつて、もつと、

もつと大変になるんだよ。

よし子

つばめちゃん……。

つばめ

だから、一緒には行けない。でも、せめて、結婚して、星野さんとなが

つていきたいの。

朱鷺雄 ふん、おまえなんか、うちにいたってたいして役に立たないんだから、ウニだか、出べそだかわかんないとこへ、さつさと行っちゃえよ。おふくろのことは俺たちがしつかり面倒見るから。

つばめ お兄ちゃん！

よし子 つばめちゃん、頼りないだろうけど、お母さんのこと、私達に任せて。せっかく出会えた愛する人のこと、大事にして。ね、それで星野さんの方が落ち着いたら、また、いつでも帰って来てよ。

星野 つばめさんのこと、必ず大事にします。そしてできるだけ早く戻ってきます。

そこへ、梅代登場。放心したようにブツブツつぶやいている。

梅代 カパエペルプ、カパエペルプ、カパエペルプ・・・。

朱鷺雄 あ、お母さん、ちよつと、話が…。

梅代、朱鷺雄をまったく無視して、玄関の方に進む。

梅代 ウプメペヨポ、ウプメペヨポ。カパエペルプ、カパエペルプ。

よし子 あなた、様子が変よ。

朱鷺雄 お母さん！

朱鷺雄が、梅代の手をつかんで止めようとする、梅代、抵抗しながらどンドン、声が大きくなる。

梅代 ウプメペヨポ、ウプメペヨポ。カパエペルプ、カパエペルプ。

梅代、叫びながら暴れる。

必死に抑えようとする朱鷺雄。

朱鷺雄 お母さん！お母さん！
よし子 どうしましょう。

朱鷺雄 仕方ない、救急車を呼べ。

よし子 でも、この状態じゃあ、鍵のかかる部屋に閉じ込められちゃうかも。やむを得ないだろう。もっと、ひどくなるようなら、俺たちの手におえない。

よし子 でも…、いやよ。

つばめ お兄ちゃん、やめて。

星野 待って。

星野、梅代に手を触れず、何か気を送っている。

星野

ウプメペヨポ、ウプメペヨポ、ツプバパメペ……。

つばめ、しばらく、驚いているが「夜の梅」を歌い出す。

つばめ

(歌う) 梢まばらに咲き初めし 花はさやかに見えねども、

梅代も何かを思い出すようにつばめに合わせて歌いだす。

つばめ・梅代

(歌う) 夜もかくれぬ香にめでて 窓はとざさぬ闇の梅

梅代

あー……。 (頭を押さえる) ツプバパメペ、つばめ、つばめちゃん！

つばめ

お母さん、大丈夫？

梅代

は、完全に思い出したわ。

朱鷺雄

一体、何がどうなってるの？

よし子

あれ、何語なの？

梅代

あのね、実は私、星野さんと同じところの生まれなの。

朱鷺雄

は？ やつぱり、大丈夫じゃないよ。

よし子

お母さん、星野さんは、ウニなんとなつていうとっても遠くの出身なんですってよ。

梅代

え？ ウニなんとか？ (と星野とつばめを見る。)

つばめ

(うなづく)

梅代

ああ、そうそう、そのウニなんとかよ。

朱鷺雄

お母さん、ふざけないでよ。

つばめ

お兄ちゃん、お姉さん、信じられないだろうけど、私もびっくりだけど、

星野

多分、本当のことだと思う。ね、星野さん、そうなんですよ？

朱鷺雄

ええ、本当です。

梅代

そんなの初耳だよ。

よし子

すっかり、忘れてたのよ。実は、私、地球時間で50年前に、旅行中の

梅代

事故で、ここに流れ着いたの。

よし子

地球時間？

つばめ

あら、まだぼけが残ってるのかしら？ いやね。それでね、長い漂流の果

梅代

てにあの日、ここに流れ着いたの。もう、どうしていいかわからなくて

つばめ

ね、暗い中、満開の梅の花をぼーっと眺めてたのよ。

よし子

うん。

梅代

そしたら、鷹雄さんが通りかかったの。それが私たちの出会い。私、『こ

よし子

うして見ていると、銀河みたい』って言いたかった。だって、夜の梅っ

梅代

て星空みたいなんですもの。

よし子

へえー。

梅代

でも、言葉がわからなかったから、ただ、黙って梅を見てたの。鷹雄さ

ん何も聞かずに一緒にしばらく見えた。それから、寒いからって、家に

朱鷺雄

連れて行ってくれたの。

おやじがねえ。

梅代

そういうんじゃない、きつと、捨て猫でも拾った感じだったんじゃないかしら？

朱鷺雄

捨て猫ねえ。

梅代

お父さん、夜の梅にちなんで、私に「梅代」と名前を付けてくれたの。

朱鷺雄

へえ〜！って、じゃあ、梅代って本名じゃなかったんだ？じゃ、元の名前は？

梅代、何か言おうとして、

梅代

さあ・・・？

朱鷺雄

さあって。

よし子

まあ、いいじゃない、ゆっくり思い出せば。それで、どうしたんです？

梅代

あの歌も鷹雄さんがおしえてくれたの。「夜の梅」。

つばめ

そうだったんだ。おかあさん、よく歌ってたよね、ずっと前から。

梅代

そうね。そしていつしか、あなたたちが生まれたの。

朱鷺雄

そういわれても、やっぱ、信じられないなあ。

梅代

信じようが信じまいが、もうどうでもいいわよ。昔の話。

朱鷺雄

だってじゃあ、僕たち、ウニデベソと日本人のハーフってこと？その割

梅代

に僕、平凡じゃない？純粋日本人って感じじゃない？

それはともかく。信じられないついでに言えば、実はあの事故は、お父さんが、私を故郷に帰してやろうとしていた実験だったの。一番信頼していた山川さんに協力してもらってたね。そのウニ・・・に帰るには、ちよつと、特別な乗り物が必要だったのよ。あの頃はね。

つばめ

そうだったの？（独り言）じゃあ、山川さんはすべてを知っていないながら

梅代

あの日・・・。

ええ、山川さんにも、つばめにも本当にひどいことをしてしまった。私のために・・・。山川さんは、快く協力してくれた上で「無事に実験が終わったなら、つばめさんにプロポーズさせてください」ってお父さんに言ったみたい。

つばめ

・・・。

梅代

お母さんは、あの事故のショックで、記憶の肝心な部分を失ってしまっ

たらしいわ。それで、どんどん、つじつまが合わなくなつて・・・

よし子

まあ

梅代

それが、この間、星野さんに会って、その後つばめが電話で話している

のをきいて、急に記憶がもどり始めたのよ。

つばめ

そうだったのね。

星野

ありがたき幸せ。

朱鷺雄

ちよつと待ってよ。ねえ、よっちゃん、思い切りつねってみて。

よし子 はい、ギュー。
朱鷺雄 痛い！（飛び上がる）よっちゃん、本気出さないでよ。（半泣き）
よし子 あら、ごめん。
朱鷺雄 （つねられたところをさすりながら）あーでも、夢じゃないんだな、この状況。じゃあ、あの、言葉は？パパとかピピピとか。あれはウニデベソ語？

つばめ ウニベルソだけどね。

よし子 ねえ、これで、つばめちゃん、何の心配もなく星野さんへ行けるんじゃない？

朱鷺雄 もう一度確認するけど、お前たちの気持ちは本物なんだな。

つばめ うん、山川さんの思いを今日改めて聞いて、ちよっとつらいけど、星野

さんは、山川さんのことも、私の肩のやけども、これまでの思いもすべてひつくるめて愛してくれる人なの。

私、つばめさんを幸せにします。つばめさん、私をしあわせにします。

星野 そうか、そういうことなら、僕はもう何も言わない。おやじも、山川さんも許してくれると思う。よっちゃんも、お母さんもいいよね。

よし子 朱鷺雄、ありがとう。

梅代 よし、そうと決まったら、早速結婚式だ。つばめ、場所はおさえてある

朱鷺雄 のか？

つばめ 場所って？ちよっと、うちで食事するだけでいいわよ。そのまま、私たちは、う、ウニベルソに旅立つし。

朱鷺雄 そうか、じゃあ、家族でお祝いだ。そうと決まったら・・・

朱鷺雄、玄関の方へ飛び出す。

よし子 あなた、どこに行くの？

朱鷺雄の声 ひとつ走り行って、鯛の尾頭付き、買ってくる！

よし子 あさってでいいのよ！あら、行っちゃったかしら。そうだ、魚屋さんに電話しておこう。

よし子、階段方向に去る。

つばめ これでいいんだよね。

梅代 ええ、朱鷺雄たちにはこのままにしておきましょう。

星野 任務の進捗状況の報告のため、急に一時帰還することになりました。お

わかりかと思いますが、あなたを探して連れ帰ることも、私の任務の一つです。あちらのご家族がどれほど心配されていることか。

梅代 ありがとうございます。ご苦労をおかけしました・・・。

照明変わる。

梅代、指を一本出しつばめ、星野の指と合わせる。不思議な光と音楽に包まれる3人。その後、うす暗くなり結婚式の音楽流れる。星野、手から光を放ち、それをつばめの指にはめるような動き。その後、つばめ、星野、腕を組む。よし子、朱鷺雄、ベールと花束を持って出てきて、つばめに渡す。道子も登場。4人、拍手などして送る。星野、つばめ、去る。その後梅代、さらにその後道子も続く。暗転。明るくなると、朱鷺雄とよし子がお茶を飲んでいる。

よし子　いい結婚式だったわね。尾頭付きもばっちりだったわね。

朱鷺雄　そうだろう。それであの二人は、いつ行くの？

よし子　なぜか、今夜の夜中に発つそうよ。だから見送らなくていいって。

朱鷺雄　そんな、行きたいよ。

よし子　そうよね。でも、つばめちゃんが、悲しくなるから、お兄ちゃんを来させないでって。頼まれちゃったのよ。

朱鷺雄　え、つばめ？（半泣き）

よし子　まあまあ、なるべく早く戻って来ると言ってたから。

朱鷺雄　うーん。

よし子　（スマホを見ながら）それにしても、ユニベルソっていう島どこにあるのかしら？スマホで調べても出てこないんだけど。

朱鷺雄　グーグル先生でもヤフー知恵袋でもダメ？

よし子　ええ。あら、ユニベルソってスペイン語で宇宙って意味だった。

朱鷺雄　へえ、じゃあ、宇宙島って意味か。

よし子　そんなどこにも載ってないような小さな島なのに宇宙島っておかしいわね。

朱鷺雄　まあ、地球岬っていうのもあるくらいだから宇宙島があってもいいんじゃない。

よし子　そうかな？ねえ、あなた、もしかして……。

朱鷺雄　え？何？

よし子　まさかねえ。ううん、なんでもない。

朱鷺雄　そういえば、おふくろは？

よし子　さあ。あ、もしかしてお母さんも一緒に帰るのかしら？

朱鷺雄　え？おふくろ、帰っちゃうの？

よし子　わからないけど、そんな地図にも載ってないような場所じゃ、これを逃したら、また次の機会というわけにもいかないでしょう。

朱鷺雄　えー、そんな、急に……。

よし子　もしかして、このまま行っちゃう気だったりして……。

朱鷺雄　えー、おふくろー。

よし子　おかあさーん、いくらでもご飯をあげますから……。

朱鷺雄

よし子

梅代、玄関側から出てくる。

梅代

何騒いでるの。私は、どこにも行きませんよ。ちょっと、みっちゃんとお茶飲んでただけよ。

朱鷺雄

お母さん！でも、いいの？もう帰れないかもしれないんだよ。

梅代

いいのよ、もう。お父さんやおまえたちと暮らしたここが私の故郷なの。それより、今日はうれしかったね。ぱーっと、ご飯にしようよ。

朱鷺雄

お母さん！また！

よし子

そうですね、ぱーっと、ご飯にしましょう。私もなんだか食べた気がしなかったのよ。

朱鷺雄

実は僕もそう。じゃあ、ぱーっと2次会だ！

照明暗くなる。朱鷺雄、よし子退場。梅代にスポット当たる。梅代、舞台前方に出てきて、ちよつとの間、客席上方を見つめる。そして、「夜の梅」を歌い出す。初め、しっとり、次第に、うれしさがこみあげてきて、踊るように歌う。

梅代

梢 まばらに 咲き初めし 花はさやかに 見えねども

夜もかくれぬ 香にめでて 窓はとざさぬ 闇の梅

花も小枝もそのままに うつる墨絵の 紙障子

かおりゆかしく 思へども 窓は開かぬ 月の梅

梅代上手に退場。一年後。明るくなると、朱鷺雄そわそわ歩き回っている。よし子、お茶の用意をしている。

よし子

あれから、もう一年か、早いわねえ。

朱鷺雄

おい、まだ、来ないのかな。

そこへ、ピンポンとなる。

朱鷺雄

はいはいはい。

と、朱鷺雄、返事をしながら、玄関へ。すぐにごっかりした様子で戻って来る。後ろには道子。

道子

はい、こんにちは。聞いたわよ、今日、つばめちゃん、戻って来るんだって？

よし子

そうなんですよ。だから、この人全然落ち着かなくて。

道子

一年ぶりだもんね。

朱鷺雄 ……。(無言で何回もうなづく。)
つばめの声 たいだいまく！

つばめ、赤ちゃん(人形)を抱いて玄関から入って来る。
宇宙服みたいな格好をしている。

よし子 わあ、つばめちゃん、元気だった？まあ、コスモ君？

朱鷺雄は、何もしゃべれず、つばめやよし子の周りをまわっている。

つばめ うん、ご無沙汰してます。まったく、この年でもう子どもはできないだろうとかるーく考えてたら、できちゃうんだもんね。やつぱ、う、ウニベルソ効果はすごいねえ。

よし子 何言ってるの。こんなおめでたいことは無いじゃない。

つばめ うん、すごく幸せ。

よし子 良かったわねえ。

道子 ところで、つばめちゃん、何、その格好？

よし子 もしかして、また、何でも屋？

つばめ まあね。実はこれからすぐ行かなくちゃいけないの。それで、あのー、夕方まで、コスモを預かってもらえないかな？

よし子 あら、ゆっくり、お茶したかったのに。仕方ないわね。

つばめ そのうえ、地球のおむつ買うの忘れちゃった！

道子 地球のおむつ？

つばめ 違う違う。至急、おむつ。大至急おむつ買わなくちゃ。

よし子 ああ。いいわよ、任せて。(小声でつばめに)ねえねえそいうえば、この間偶然、つばめちゃんの昔の写真が出てきたんだけどね、研究室の。山川さんって、どことなく、星野さんに似てない？朱鷺雄さんは「そうか？」って言ってたけど。

つばめ (同じく小声で)お姉さんもそう思った？誰にも言っていないんだけど、私も初めて見かけたとき、ドキッとしちゃった。

よし子 やつぱり？
うん。あ、いけない、急がなくちゃ。じゃ、コスモをお願いしまーす。

つばめ、赤ちゃんをよし子にわたし、玄関方向に。去り際に、朱鷺雄の肩に手を置き、

つばめ お兄ちゃん、たいだいまく。行ってきます！
朱鷺雄 　　つばめ

よし子、あやししながら、

よし子 あらあら、相変わらず慌ただしいママでちゅねえ。

道子、横からのぞきこんで、

道子 まあ、コスモ君はE・Tみたいなお顔でちゅねえ。

よし子 おばさん！

道子 ここんちの朱鷺雄おじさんも、大地君もそうだったんでちゅよ。

朱鷺雄 おばさん！

道子 でも、おじさんはともかく大地君は今はずごくカツコよくなったからね、大丈夫よ。コスモ君も、早く人間になってちょうだいねえ。

朱鷺雄、よし子、微妙な顔。朱鷺雄、よし子から、赤ちゃんを受け取ってあやそうとすると、赤ちゃんが泣き出す。

朱鷺雄 わー、どうしたの？あれ？なんかくちやいよ。

よし子 あら、本当、大変。くちやいくちやい。あなた、急いで紙おむつ買ってきて。

朱鷺雄 わかった。

道子 どれ、私も、手伝ってあげるわよ。

朱鷺雄、玄関方向へ。よし子、道子、赤ちゃんを連れて、階段側へ。階段側から、梅代の声。

梅代の声 まあ、コスモ君、来てたのね。どれ、おばあちゃんとこへ、おいで。
よし子 おかあさん、ごめんさい。ちよっと、それどころじゃないんです。あとで。

梅代、舞台上に登場。ニコニコと客席に向かい、

梅代 かわいいコスモが帰ってきました。あの人に似て、男前になりますよ。そして、きつと、幸せになる。そうですよ、生まれた境遇はいろいろでも、私たちの心に隔たりは無いはずですよ。皆様も、アパイピシピテペルプ。

よし子の声 お母さん、誰と話してるんですか？

梅代 あら、よし子さん、ごはんまだですかー。

よし子の声 今、それどころじゃ、ありません！さっき、食べたでしょ。

梅代 あんなこと言って、今日はまだ食べてないんですよ。まったくねえ。

梅代、ぼやきながら階段方向に去る。暗転。(完)

〈参考文献〉

P 6 「夜の梅」 文部省唱歌 作詞者不詳 作曲・岡野貞一（著作権の切れた作品）

P 2 0 「松谷みよ子 あかちゃんの本」文・松谷みよ子 絵・瀬川康男、東光寺啓、いわさきちひろ 童心社

P 2 1 「大きな大きなせかい―ヒトから惑星・銀河・宇宙まで」かこさとし著 偕成社

「死霊」埴谷雄高による長編小説 未完の第9章は虚體論―大宇宙の夢

「ニュートリノ天体物理学入門―知られざる宇宙の姿を透視する」小柴昌俊著